



令和元年9月18日
海上保安庁

**夏季（7-8月）のマリンレジャー活動に伴う海難発生状況（速報値）
～死者・行方不明者数が過去最少～**

例年、夏季はマリンレジャーが活発となり、海難が増加することから、海上保安庁では全国でマリンレジャーの安全対策強化を図りました。当該期間における海難発生状況は以下のとおりであり、死者・行方不明者数が過去最少となりました。

○マリンレジャー活動※₁に伴う人身事故（民間救助機関による海難者数は計上していない）

- ◆ 人身事故者数：231人（うち死者・行方不明者数74人）
 - ★ 昨年に比べ80人減少
- ◆ 活動内容別：遊泳中の事故が111人と最も多く、全体の約5割
- ◆ その他の人身に係るトラブル※₂：167人

○プレジャーボート等※₃の船舶事故（民間救助機関による海難隻数を含む）

- ◆ 船舶事故隻数：254隻（うち死者・行方不明者を伴う事故5隻（5人））
- ◆ 海難種別：運航不能※₄（機関故障）が84隻と最も多く、全体の約3割
- ◆ インシデント※₅：109隻

※₁「マリンレジャー活動」とは、海水浴、釣り、潮干狩り、サーフィン、ボードセーリング、スクーバダイビング等の海浜における余暇活動及びプレジャーボート等による遊走等をいいます。

※₂「その他の人身に係るトラブル」とは、海上又は海中における活動中に死傷者（自殺、病気を除く）が発生しなかった海難をいいます。

※₃「プレジャーボート等」とは、プレジャーボート（モーターボート、ヨット、カヌー、水上オートバイ等）及び遊漁船をいいます。

※₄「運航不能」とは、船舶の運航に必要な設備の故障等により、航行に支障が生じたことをいいます。

※₅「インシデント」とは、船舶の運航に関連した損害又は具体的な危険が生じなかった海難をいいます。

【参考】

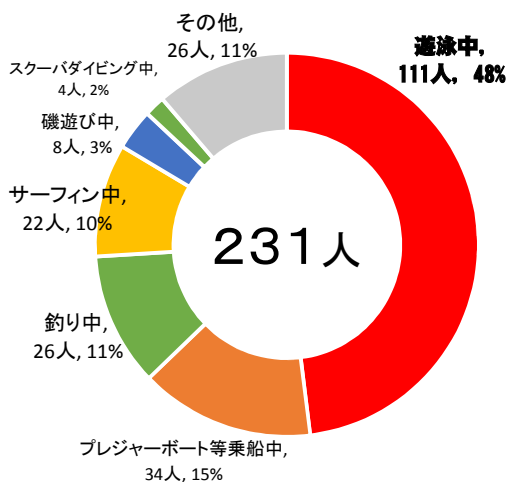
平成29年までの計上方法（民間救助機関のみによる救助を除く。）での海難発生状況は以下のとおりです。

過去5年間の7-8月における事故発生状況

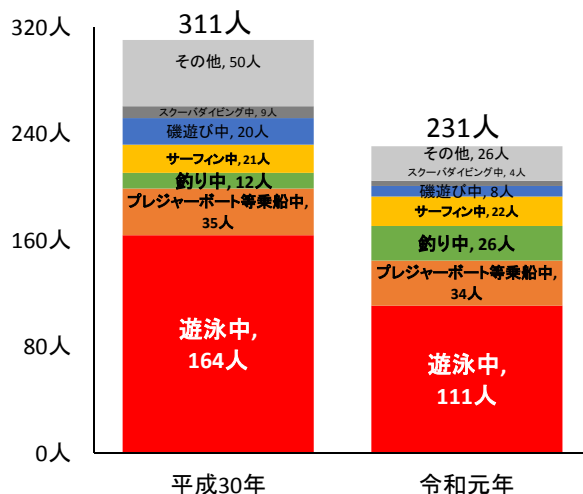
		平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年
人身	マリンレジャー活動に伴う海難者数(人)	440	473	388	468	398
	死者・行方不明者数(人)(内数)	123	140	119	111	79
船舶	プレジャーボート等の海難隻数(隻)	257	262	222	232	268
	死者・行方不明者数(人)(内数)	2	5	1	5	5
人身・船舶 死者行方不明者数 計(人)		125	145	120	116	84

マリレジャー活動に伴う人身事故の活動内容別発生状況

【活動内容別発生状況】



【昨年比】



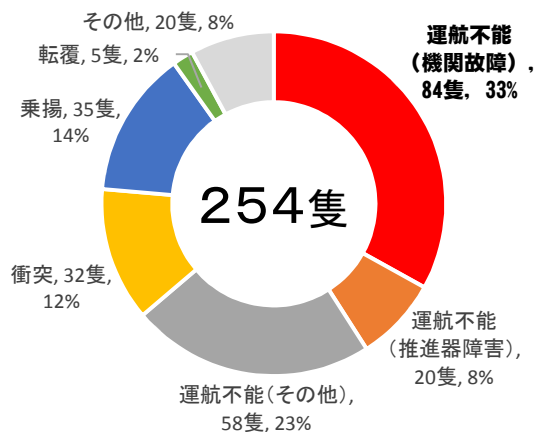
○遊泳中の事故が最も多く、全体の約5割

【死者を伴う人身事故事例】

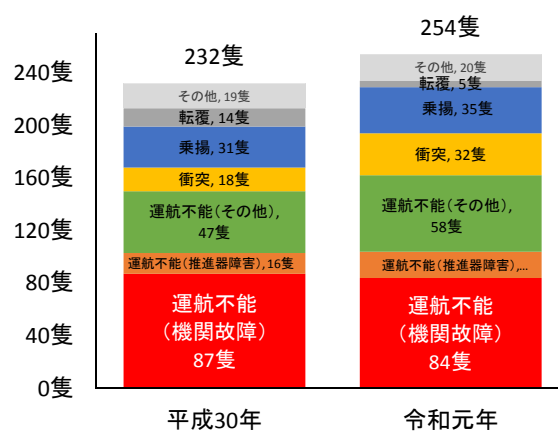
- 8月18日、事故者は、前日に閉鎖された海水浴場付近で友人と遊泳していたが、高波にさらわれて行方不明になり、後日遺体となって発見されました。
- 8月11日、事故者3名は岩場で釣りをしていたが、その後釣り道具を残して姿が見えなくなり、後日全員が遺体となって発見されました。

マリレジャー活動に伴う船舶事故の海難種類別発生状況

【海難種類別発生状況】



【昨年比】



○運航不能（機関故障）の84隻が最も多く、全体の約3割

【死者を伴う船舶事故事例】

- 7月27日、プレジャーボートが航行中、橋の橋脚に衝突し、乗船していた2名のうち、1名が負傷し、1名が頭部外傷により死亡が確認されました。
- 7月16日、ミニボートで出港し、釣りを終え帰港中、バランスを崩し転覆しました。乗船していた2名のうち1名が溺死しました。

マリレジャー活動に伴う海難の特徴

※以下は、過去のデータとの比較分析を行う必要から、平成29年までの計上方法による数値を使用しています。

○夏季のマリレジャー活動に伴う死者・行方不明者数が過去最少

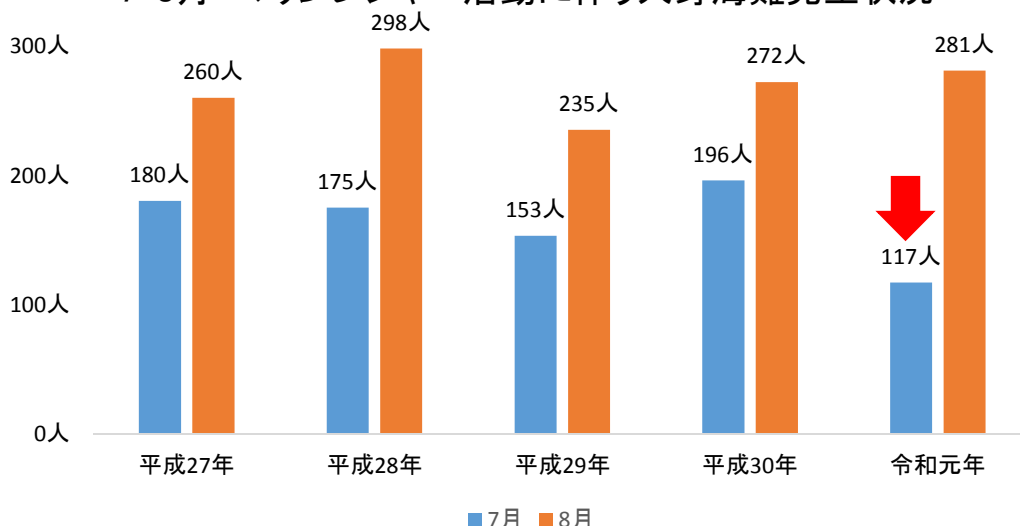
7-8月の期間中、マリレジャー活動に伴う死者・行方不明者数は79人となり、現在の調査方法となった平成13年以降、過去最少となりました。

○7月中に発生したマリレジャー活動に伴う人身事故者数が過去最少

7月に発生したマリレジャー活動に伴う人身事故者数は117人となり、現在の調査方法となった平成13年以降、過去最少となりました。

死者・行方不明者数と人身事故者数が共に過去最少となったことは、7-8月の期間中、全国でマリレジャーの安全対策強化を図ったことに加え、7月の記録的な日照不足及び梅雨明けが例年に比べ遅れたことが要因として考えられます。

7-8月 マリレジャー活動に伴う人身海難発生状況



○台風10号の影響によるマリレジャー活動に伴う人身事故者数の増加

日本を縦断した台風10号は、勢力が強く、上陸前の8月10日(土)~12日(月(祝日))の三連休、また通過後となる8月16日(金)~18日(日)に多くの海浜事故が発生しました。当時は晴天で、比較的風が弱く、多くのレジャー客が海に訪れていたことが推測される一方で、日本の遠方で発生した台風によりうねりが海岸に打ち寄せたことが影響しているものと考えられます。

なお、18日の事故者数は、現在の調査方法となった平成13年以降、1日あたりの事故者数が過去2番目に多くなりました。

遠方からの高い波・うねりの発生



台風通過後の高い波・うねりの継続

9日 (金)	10日 (土)	11日 (日)	12日 (月)	13日 (火)	14日 (水)	15日 (木)	16日 (金)	17日 (土)	18日 (日)
4人	13人	40人	21人	10人	10人	0人	18人	12人	41人

※過去最多：57人(平成19年8月12日)

↑
過去2番

秋季に向けて

(1) 秋季における海難の傾向

例年、秋季に釣り中の事故が急増する傾向にあり、事故の約8割が海中転落で、そのうち約8割がライフジャケット非着用です。

また、ミニボートの海難も、例年、秋季に最多となり、事故の約4割が転覆・浸水海難です。

これらのことを踏まえ、秋季に向けて、海上保安庁では、ライフジャケットの常時着用の励行などを呼びかけていきます。(別添啓発用リーフレット参照)

(2) ウォーターセーフティガイド「釣り編」の公開

海上保安庁では、釣り中の事故を防止するために役立つ安全に関する情報をまとめたサイトを本日公開しました。推奨される装備品や知識のほか、過去の事故情報等を掲載しています。



https://www6.kaiho.mlit.go.jp/info/marinesafety/00_totalsafety.html

ウォーターセーフティガイドとは

近年、カヌー、SUP、ミニボートなどのウォーターアクティビティが活発に行われています。

これらのウォーターアクティビティは、その手軽さから、十分な知識・情報が不足したまま事故に至るケースが多数見受けられます。

これらの状況を踏まえ、海上保安庁では、平成29年度から国の関係機関や民間の関係団体と連携し、安全に安心して楽しむための注意事項を抽出し、ウォーターセーフティガイドとして「水上オートバイ」、「カヌー」、「SUP」、「ミニボート」、「遊泳」をホームページにおいて公開しており、本日「釣り」が追加されました。



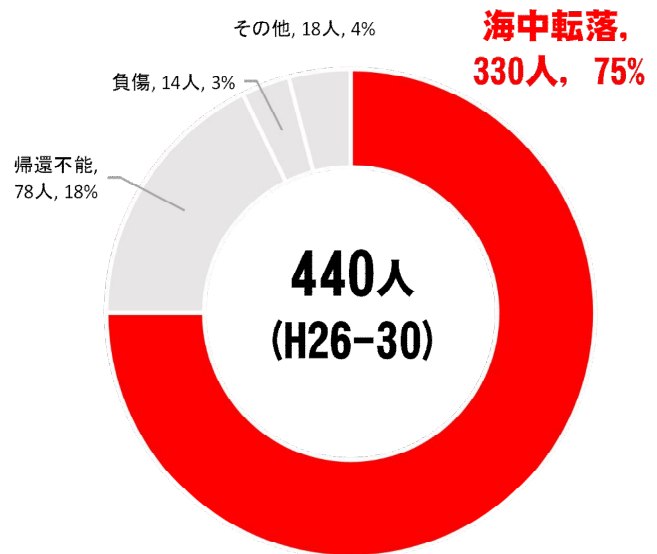
常時着用！ライフジャケット！

秋に増加！
釣り中の
転落事故！



秋季の釣り中の事故は、
海中転落が75%と最も多く発生！

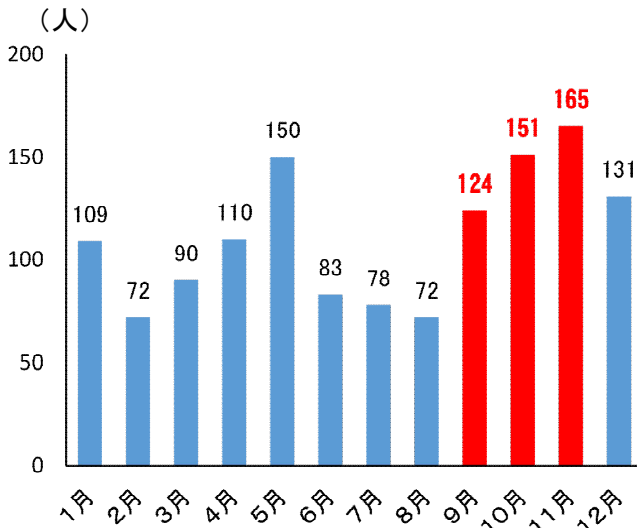
【 秋季 (9-11月) の釣り中の事故発生状況 】



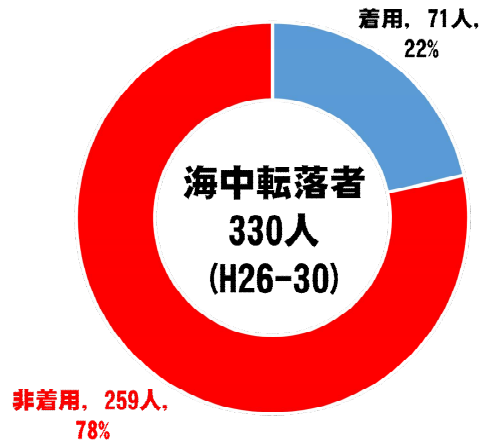
海上保安庁

【 釣り中の事故発生状況（H26-30） 】

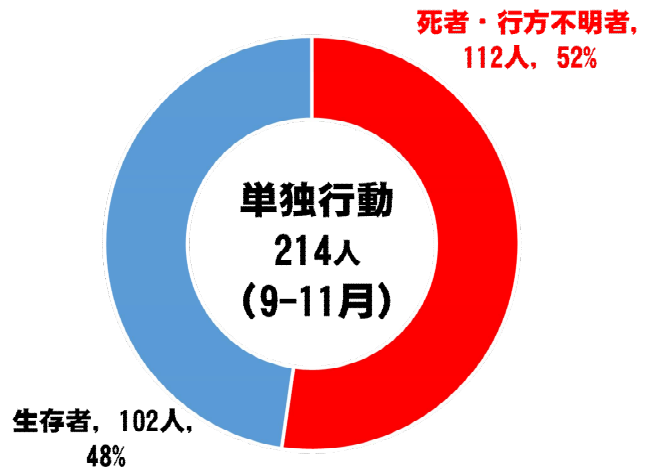
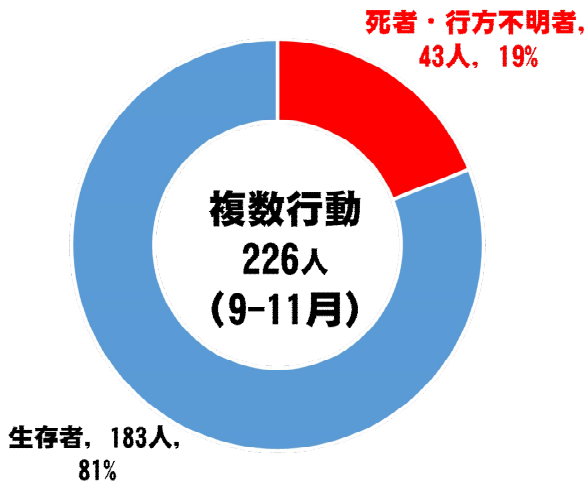
【 月別発生状況 】



【 ライフジャケット着用別発生状況（9-11月） 】



【 単独・複数行動別発生状況（9-11月） 】



- **ライフジャケットは常時着用しまよう！**
- **複数行動を心がけましょう！**

Water Safety Guide

海上保安庁



釣り中の事故を防止するための役立つ情報をまとめた安全情報サイトです。推奨される**装備品**や**知識**のほか、**過去の事故情報**等を掲載しています。

海の安全情報



全国各地の灯台などで観測した**気象情報**、**海上工事**等の**情報**や、海上模様が把握できる**ライブカメラ**映像をリアルタイムに提供しています。スマートフォン用サイトでは、様々な情報が地図画面上で確認できます。

ミニボート！波や・船体バランスに要注意！

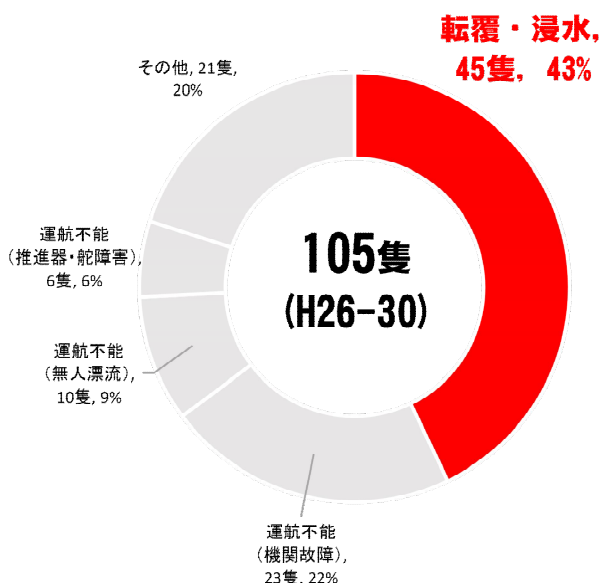
秋に増加！
ミニボートの
転覆海難！



ミニボートとは…

船体の長さが3m未満であり、かつ、推進器の出力が1.5kW(2.039馬力)未満の船舶をいいます。ミニボートは小型船舶操縦士の免許が不要であることなどから、近年、利用者が増加しています。

【 秋季(9-11月)のミニボート海難発生状況 】



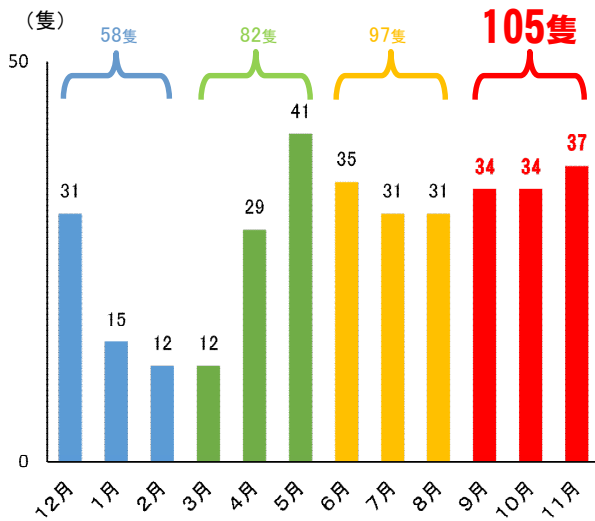
ミニボートの海難は、
「転覆・浸水」が約4割！



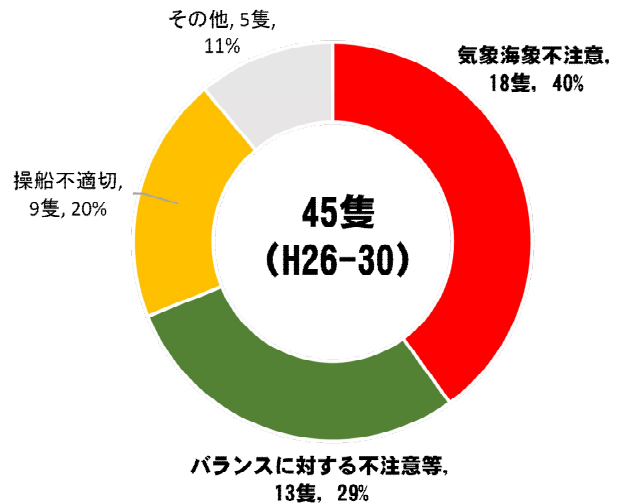
海上保安庁

【 ミニボートの海難発生状況（H26-30） 】

【 月別発生状況 】



【 転覆・浸水海難原因別発生状況（9-11月） 】



【 事故防止のために 】

波・風に注意しましょう!

ミニボートは波や風の影響を受けやすく、ふとした不注意により、転覆や浸水の危険性が高まります。波が高い場合（波高20cm以上）や、風が強い場合（風速4m/s以上）は、出航は控えるようにしましょう。また、海上で風や波が出てきた場合は、早めに帰航するようにしましょう。

船のバランスに注意しましょう!

ミニボートは船体が小型軽量であるため、不安定で揺れやすい特徴があります。乗船者や積載物の配置（片寄り等）に注意しましょう。また、安全のため、ミニボートの上では立ち上がりせず、移動するときは、できるだけ低い姿勢（四つん這い）で動き、船体のバランスに注意しましょう。



ミニボートの船舶海難を防止するための役立つ情報をまとめた安全情報サイトです。推奨される**装備品**や**運航に関する知識**のほか、**過去の事故情報**等を掲載しています。

海の安全情報



全国各地の灯台などで観測した**気象情報**、**海上工事**等の**情報**や、海上模様が把握できる**ライブカメラ**映像をリアルタイムに提供しています。スマートフォン用サイトでは、様々な情報が地図画面上で確認できます。